

贈りたい本大賞を振り返って

やまなし読書活動促進事業の一環として、県立図書館が主体となり「贈りたい本大賞－大切な人に贈りたい1冊－」を実施した。これは、大切に思う人に贈りたい本の書名、著者名等と、150字以内の推薦文（その本を選んだ理由、贈りたい理由）をお送りいただくもので、次の趣旨により応募を呼び掛けた。

「大切な人に本を贈ることは、あなたの“想い”を伝えること。

本は、あなたと贈られた人との心を通い合わせ、絆を深めます。

愛する人へ、大切な家族へ、可愛い孫へ、かけがえのない友へ…。

もしあなたが様々な場面で、大切な人に本を贈るとしたら、どんな本を、どのような理由で贈りますか？ 県立図書館では、「贈りたい本大賞」の募集を行います。」

募集に当たっては、贈る相手として、「親へ贈りたい本」「夫または妻へ贈りたい本」「子どもへ贈りたい本」「孫へまたは孫からおじいちゃん・おばあちゃんへ贈りたい本」「恋人、片思いの人へ贈りたい本」「友だち、先輩・後輩へ贈りたい本」の6部門を設けた。対象とする本は、日本で出版された本（コミックを除く全ジャンル）で、実際に贈ることを想定して、できるだけ書店で手軽に入手できるものとした。募集期間は平成26年9月20日（土）から11月15日（土）まで、郵送、FAX、メール、県立図書館への持参（応募箱の利用）の何れかの方法で応募していただくこととした。応募の呼び掛けは、図書館ホームページ、山梨県ホームページへの掲載、報道機関への情報提供とあわせて、阿刀田館長の言葉、募集要項、応募用紙をひとつにしたA3二つ折りの印刷物を作成し、館内に設置するほか、市町村立図書館、小中高校、書店、県立文化施設、ことぶき勸学院等に9,000部配布した。図書館利用の多い高校には2学年の全生徒数を配布した。館内、市町村立図書館、主要書店には合計57個の応募箱を設置した。

募集の結果、2,617点という予想を遙かに上回るご応募をいただいた。学校として取り組んでいただいたところも多く、県外を含む22校から2,358点が寄せられた。全体としては学校の応募が9割以上となり、一般からの応募の増加が望まれる。部門別に見ると、学校からの応募が集中した部門⑥「友だち、先輩・後輩へ贈りたい本」が、1,852点と最も多く、部門間の点数に大きな差が表れた。特に部門②「夫または妻へ贈りたい本」は26点と極端に少なかった。また、部門にない「兄弟、姉妹」に贈りたいとのご意見もいただいております、部門設定の上での工夫も課題となった。

部門別応募点数は次のとおりである。

部門①親へ贈りたい本	281点
部門②夫または妻へ贈りたい本	26点
部門③子どもへ贈りたい本	251点
部門④孫へまたは孫からおじいちゃん・おばあちゃんへ贈りたい本	94点
部門⑤恋人、片思いの人へ贈りたい本	113点

部門⑥友だち、先輩・後輩へ贈りたい本 1, 852点
 合計 2, 617点

応募総数 2, 617点

投票総数 1, 754点

部門1 親に贈りたい本

『おじいちゃんがおばけになったわけ』 甲府西高校 小林 美優 様

部門2 夫または妻に贈りたい本

『いつでも会える』 甲府市 佐野 敏昭 様

部門3 子どもへ贈りたい本

『生まれてバンザイ』 笛吹市 中村みつ江 様

部門4 孫へまたはおじいちゃん・おばあちゃんへ贈りたい本

『手紙』 都留高校 鈴木 大輔 様

部門5 恋人、片思いの人に贈りたい本

『LOVE LETTER』 中央市 鈴木 悠莉 様

部門6 友だち、先輩・後輩へ贈りたい本

『それでも僕は夢を見る』 甲府西高校 菊原 真美 様

学校賞 南アルプス市立八田小学校 広島県福山市立神辺中学校

山梨県立都留高等学校 他 5校

一般投票記念品贈呈 甲府市 小林 陽子 様 他 2名

※選考委員 齊藤 秀 (山梨県立図書館副館長)

宮川 大輔 (春光堂書店専務取締役)

小田切厚美 (山梨県立図書館司書幹)

大窪 広美 (山梨県立図書館司書)

